

展示室5 揺れる光／拡散する色彩

2021年9月11日(土)～11月7日(日)

オノサト・トシノブは多彩な色彩で規則的に画面を分割することで見る者の視覚を惑わし、李禹煥は単色の蛍光塗料を吹き付けた大画面によって展示空間全体を変質させます。加藤アキラや保田春彦、清水九兵衛は金属の光沢を巧みに操ることで複雑な光の反射を生み出し、鈴木ヒロクは光の軌跡をドローイングの線にとらえようとしているかのようです。鬼頭健吾のインスタレーションは、まさに色彩と光そのものを見せるための装置と言えるでしょう。

この展示では、見る角度によって複雑に変化する光の反射や、作品から空間へと広がっていく色彩の効果を表現の重要な要素として用いている品を特集します。

No.	作者名	(生年)	作品名	制作年	技法・材質	寸法等	備考
1	李 禹煥	(1936-)	風景 I	1968/2015	スプレーペイント・カンヴァス	218.2×291	寄託作品
2			風景 II	1968/2015	スプレーペイント・カンヴァス	218.2×291	寄託作品
3			風景 III	1968/2015	スプレーペイント・カンヴァス	218.2×291	寄託作品
4	オノサト・トシノブ	(1912-1986)	作品	1964	油彩・カンヴァス	130.3×162.1	
5			波紋の緑	1968	油彩・カンヴァス	130.3×193.9	
6	加藤アキラ	(1937-)	REPORT EA 3-25	1966	油彩、アルミニウム、ワイヤーブラシ、塩化ビニル板・板	90×90×6.5	関口将夫氏寄贈
7			Space Compression	1968	アルミニウム・板	75×131.8×1.4	作者寄贈
8	保田春彦	(1930-2018)	1m立方体	1970	ステンレススチール	110×100×121.5	
9	清水九兵衛	(1922-2006)	affinity B	1974	アルミニウム	27.0×120.0×110.0	
10	鬼頭健吾	(1977-)	active galaxy	2014-15	ポストカードスタンド、アクリル板、鏡、モーター、チェーン(5台)	178×52×52／175×35×35／156×40×42／152×42×42／130×34×34	寄託作品
11	鈴木ヒロク	(1978-)	Interexcavation #13	2019	シルバーインク、土、アクリル、顔料・カンヴァス	194×162×3	寄託作品

※都合により展示作品を変更する場合がございます。ご了承下さい。